



故きを温ねて、新しきを知る
 ～葵学園のあしあと②③～

平原まつりで親子で盆おどり

平成17年の葵学園は、初めての事業に果敢に挑戦する年でした。

まず、夏の平原まつりのメインイベントである盆踊りに参加しました。それも昼の時間帯に開催される「子ども盆踊り」ではなく、大人たちと一緒に踊る夜の部への参加です。

平成17年5月のある日曜日、帯広の森幼稚園の保護者の皆さんが園舎の周りのごみ拾いをしてくださいました。その休憩時間に私は一つの提案をしたのです。

「平原まつりの盆おどりに親子で参加することはできないだろうか?」と…

この意図は、地域のお祭りを親子で楽しむ雰囲気や年々薄れていくことを残念に思ってきたことが引き金になっていきます。

私は、以前から親子で参加できる平原まつりの盆踊りを提案してきました。その理由は、親子で参加して楽しむ祭りづくりで、家族の結びつきを強めることができるかと信じていたからです。

当時、私は市議会に席を置いていました。その活動の中で、他のまちのお祭りを直接見る機会が多かったです。どのまちも、長年地域に親しまれたお祭りが

衰退していく様に心を痛めていました。

そんな中、ある東北のお祭りを見に行ったときに、大人に混じって生き生きと踊る子ども達の姿に出会ったのです。

その踊りは、その地域に伝わる伝説をモチーフにしたものでしたが、大人が子どもを間に入れ込み込むように踊っていました。その姿を見たとき、この光景を帯広のお祭りに生かすことはできないだろうかと考えたのでした。

私は、機会あることにそのことを平原まつりの関係者に提案しますが、数年後に実現したのは「子ども盆おどり」でした。

帯広の森幼稚園の親子はすでに夜の部で踊っていましたので、関係者から「昼の部」への参加を進められましたが、今日まで当初の方針を変更しないできています。

そればかりではありません。最初は帯広の森幼稚園のみの参加でしたが、回を重ねるごとに、つじが丘幼稚園の保護者の理解も得られるようになり、今では毎回150人を超える参加者になっています。

これからも、子ども達の健康に配慮しながら、親子で楽しむ「夜の盆踊り」を貫きたいと思えます。

十勝毎日新聞 2005年(平成17年)8月7日(日曜日)



学校法人帯広葵学園
 理事長 上野敏郎

十勝毎日新聞 2005年(平成17年)8月17日(水曜日)

アニメキャラ子供に大人気
 帯広の森幼稚園など
 ○アニメのキャラクターの着ぐるみが子供たちに大人気。
 今年初出場の帯広葵学園(上野敏郎理事長)が運営する帯広の森幼稚園(唐澤三園長、帯広市南町南3線)は、職員らがアンパンマンやバイキンマンなどの着ぐるみ姿で登場。子供たちから次々に握手や写真撮影を求められた。同幼稚園盆踊りチーム代表の豊島伸一PTA会長は「自分たちの子供の思い出づくりに」と思っただけだが、浴槽の小さな子供にも喜んでもらえうれしかった。来年もぜひ参加したいと話していた。
 個人の部でも帯広市の主婦武田豊子さん(55)がアンパンマンの格好で踊り、子供らの目を引き付けていた。



帯広の森幼稚園



012 青い鳥保育園



柳町保育園



つじが丘幼稚園



あおいキッズハウス



東土狩保育所・南中保育所・西中保育所



緑陽台保育園



あおいとり
 プラス